

1 宇美町の現況

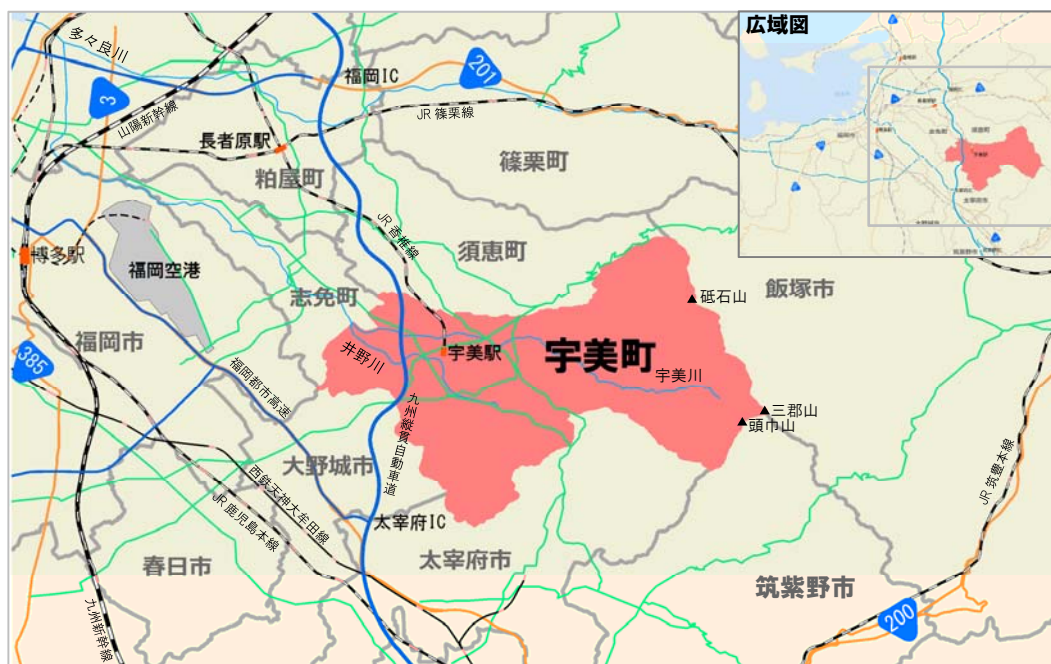
1.1 位置と沿革

■宇美町の位置及び地勢

- 本町は、東経 130 度 30 分、北緯 33 度 31 分、糟屋郡の最南端に位置し、西に大野城市、福岡市、北西に志免町、北に須恵町、東に飯塚市、南に太宰府市、筑紫野市にそれぞれ隣接しています。
- 本町の東部から南部にかけて、砥石山(828m)、三郡山(936m)、頭巾山(901m)などの筑紫山系が取り囲み町土のおよそ 6 割が森林で形成されています。また、砥石山・三郡山を源とし、町の中央部を貫く宇美川と、四王寺山系より発した井野川が合流し、志免町・福岡市を経て多々良川に流れ込み、博多湾に注いでいます。

■沿革

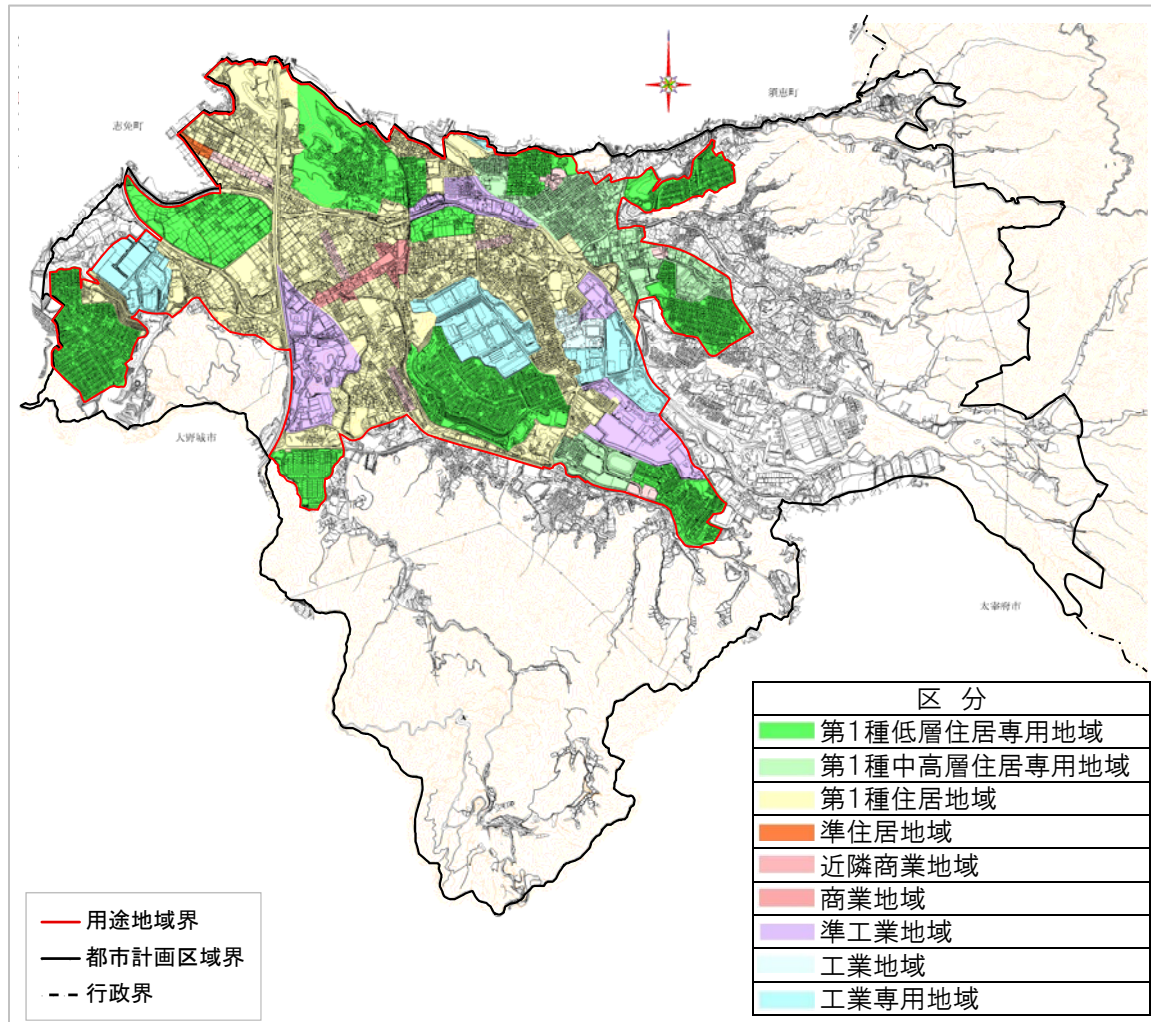
- 明治 21 年(1888)、市町村制の実施によって、宇美・炭焼・井野・四王寺の四つの村が合併して、宇美村が誕生しました。当時の戸数は 629 戸、人口は 3,464 人。さらに、大正 9 年(1920)10 月 20 日には、現在の糟屋郡のなかで最初に町制を施行し、宇美町になりました。
- 戦後しばらくまで、本町は石炭産業で栄えましたが、高度経済成長政策とエネルギー革命によって、炭坑の閉山が相次ぎ、昭和 38 年(1963)の三菱勝田炭坑の閉山を境に、鉱業所の歴史は幕を降ろしました。
- 昭和 50 年代に入ると、福岡市の成長とともにベッドタウン化が進み、町制施行 90 周年を迎えた現在では、人口 38,592 人(平成 22 年国勢調査)を有する町へと成長しました。



位置図

1.2 都市計画区域

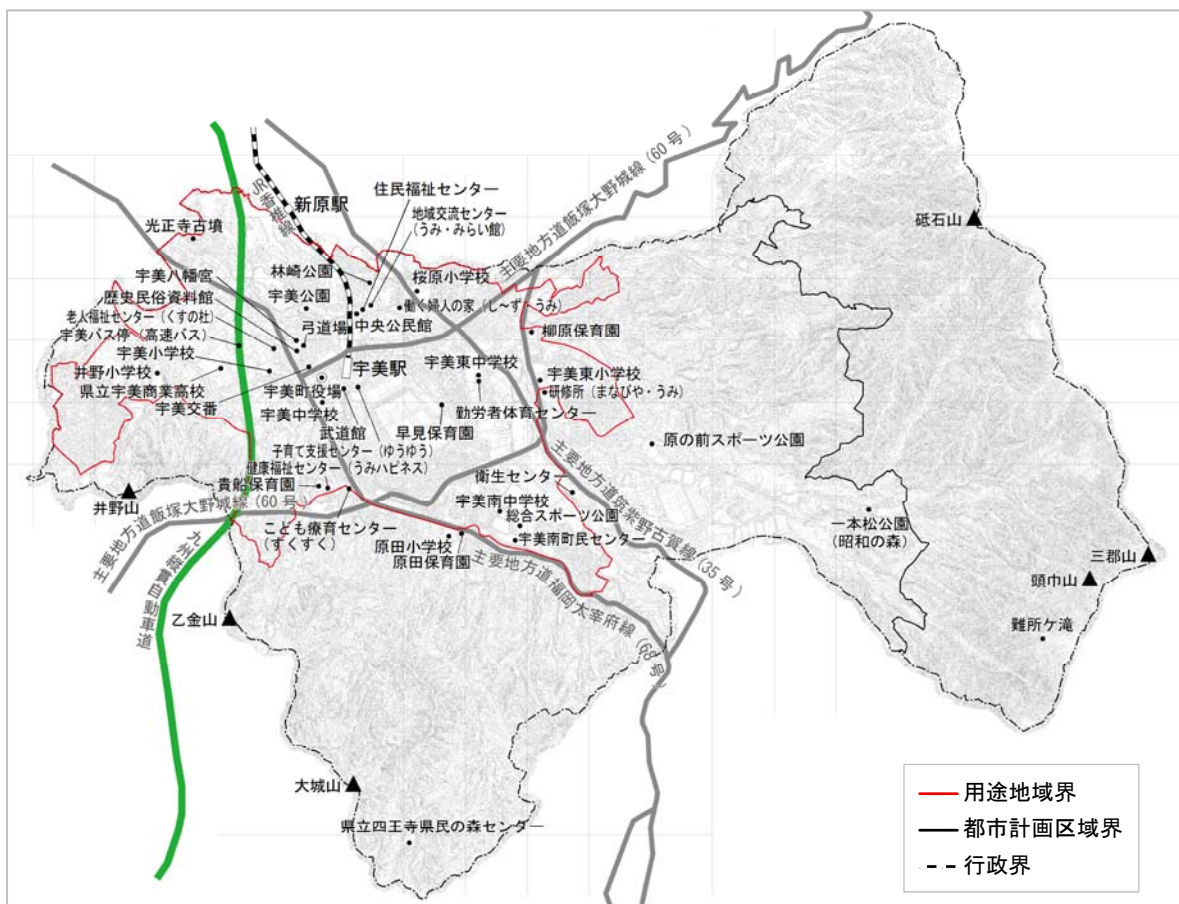
○本町の総面積は 3,021ha であり、東側の森林部を除く区域に都市計画区域(2,159.0ha)が指定され、市街地を形成する北西側一帯に用途地域(764ha)が指定されています。都市計画区域は、非線引き都市計画区域となっています。



都市計画区域及び用途地域の指定状況

1.3 主要な施設の立地状況

○町の北西側の用途地域が指定されている区域一帯に、宇美町役場、中央公民館、武道館、宇美八幡宮、歴史民俗資料館などの主要な施設が集積しています。

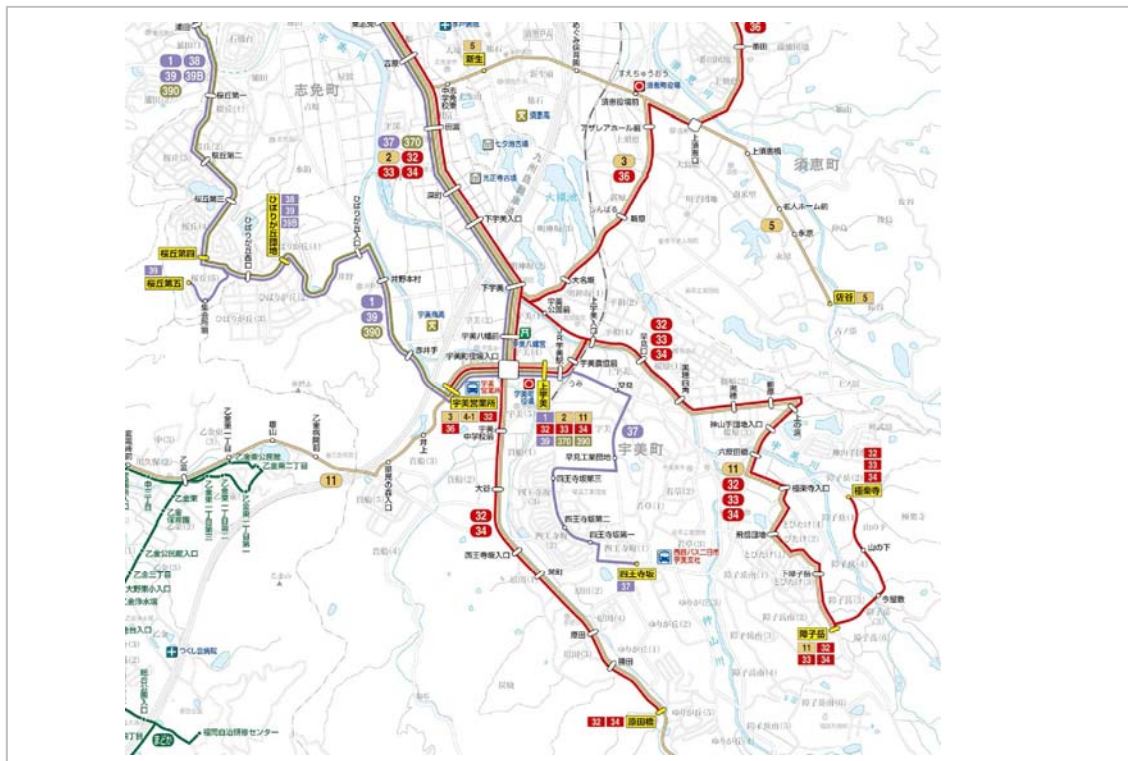


主要な施設の立地状況

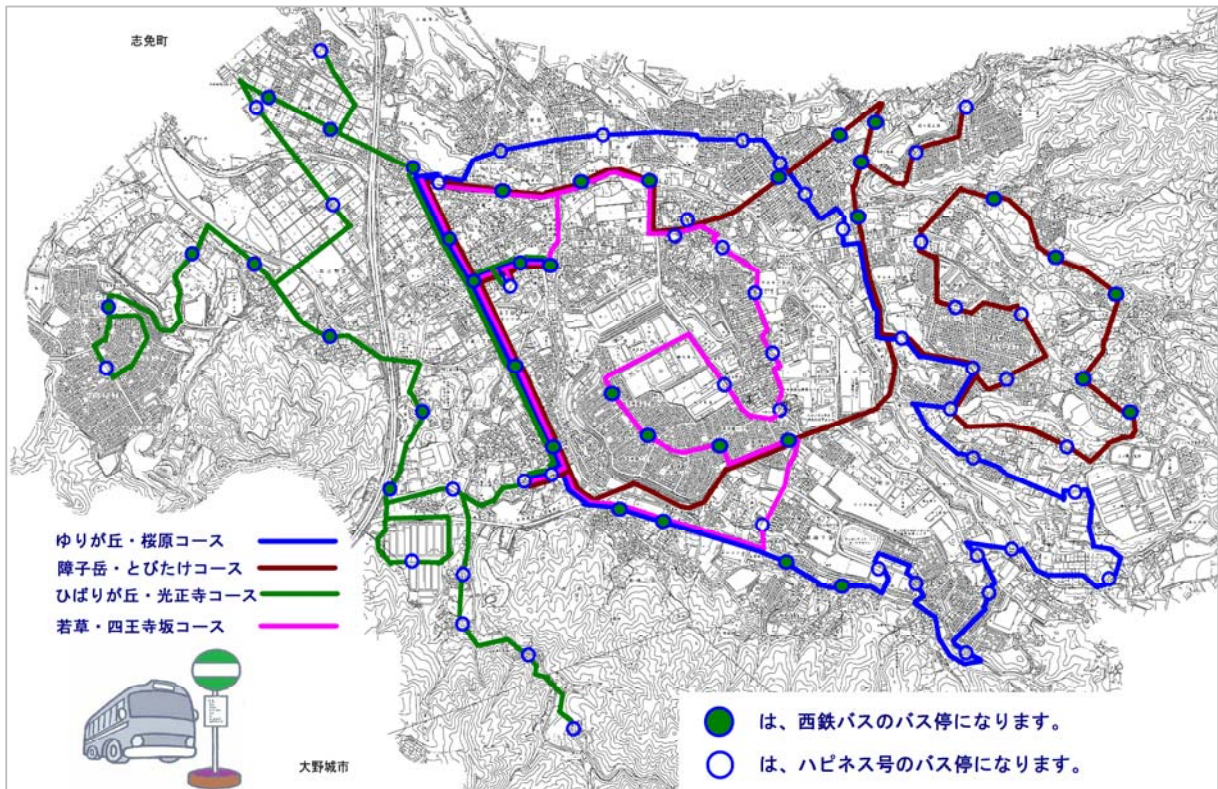


1.4 道路・公共交通

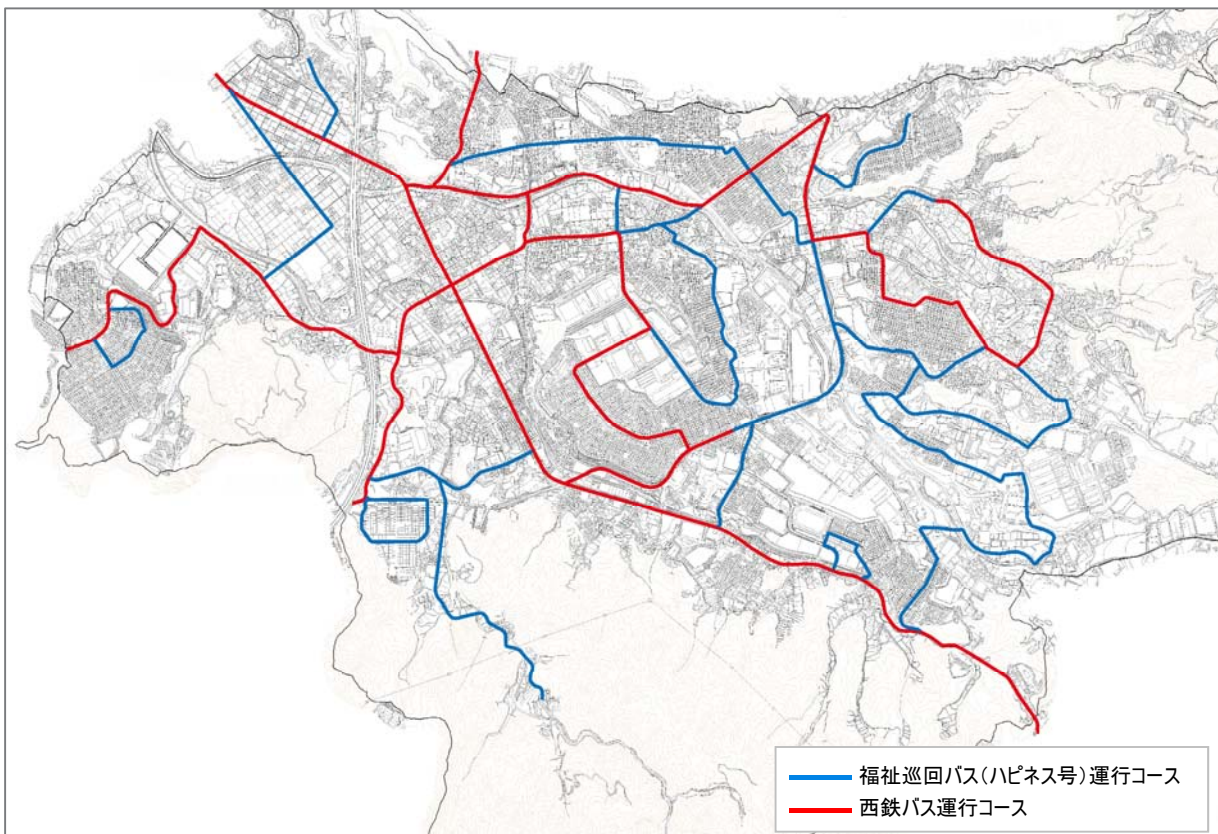
- 主要な道路網として、町の西側に九州縦貫自動車道が南北に通り、北側に接する須恵町内に須恵スマートインターチェンジが立地しています。この他、主要地方道筑紫野古賀線(35号)及び主要地方道福岡太宰府線(68号)が町の北西側から南東側を通り、主要地方道飯塚大野城線(60号)が町の西側から北東側を通過しており、町の骨格を形成しています。
- 本町の公共交通は、鉄道、バス(高速バス、路線バス、福祉巡回バス(ハピネス号))があります。
- 鉄道は、町北西側の町役場近くに JR 香椎線の終着駅があり、博多方面、香椎方面、飯塚方面を結んでいます。博多駅までの所要時間は35分程度です。5時台から23時台まで運行されており、6時台から21時台は概ね1時間に3本程度運行されています。
- 高速バスは、九州縦貫自動車道に宇美バス停があり、小倉方面、久留米・長崎・熊本方面を結んでいます。
- 路線バスは、西鉄バスが運行されており、宇美町役場入口バス停を中心に、北は博多・天神方面、西は JR 南福岡駅方面、南は太宰府方面と四王寺坂、東は障子岳を結んでいます。各バス停の停車本数は概ね20本(片側)以上となっており、主要地方道福岡太宰府線の宇美町役場入口バス停以北で特に多くなっています。宇美町役場入口バス停からの所要時間は、JR 南福岡駅までが25分程度、博多駅までが40分程度となっています。
- 福祉巡回バスとして、ハピネス号を4コース(各コース4～5便/日、運賃無料)で運行しています。日曜日、国民の祝日及び年末年始(12月29日～1月3日)、盆(8月13日～15日)が運休となっています。
- 本町を出発地とする移動の代表交通手段は、調査圏の平均値に比べて、自動車が多く、公共交通の鉄道やバスが少ない傾向にあります。(第4回北部九州圏パーソナルトリップ調査(H17～19年度))



路線図(西鉄バス) : 西日本鉄道株式会社ホームページ



福祉巡回バス(ハピネス号)運行コース

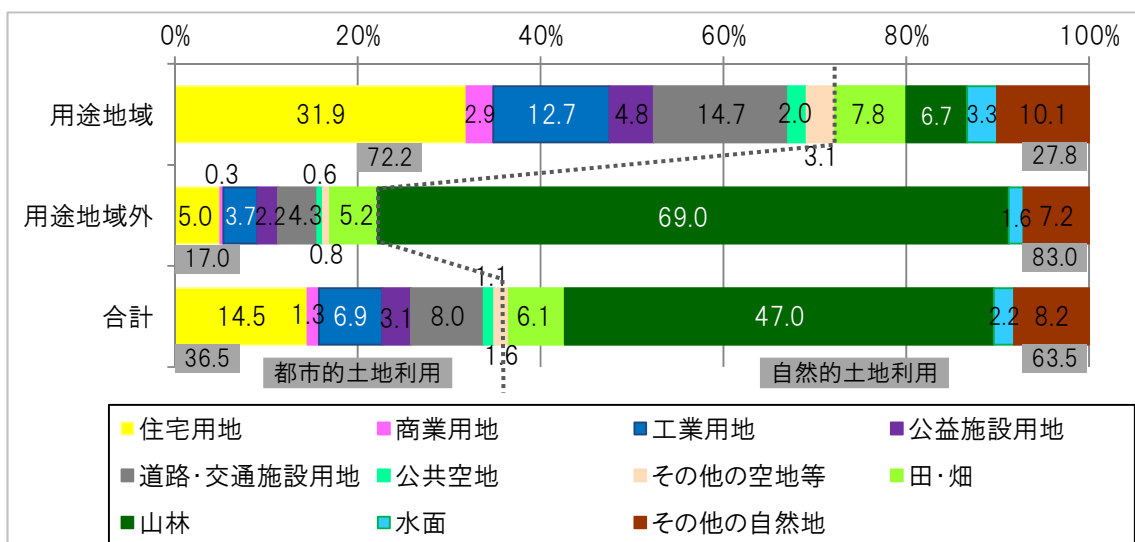
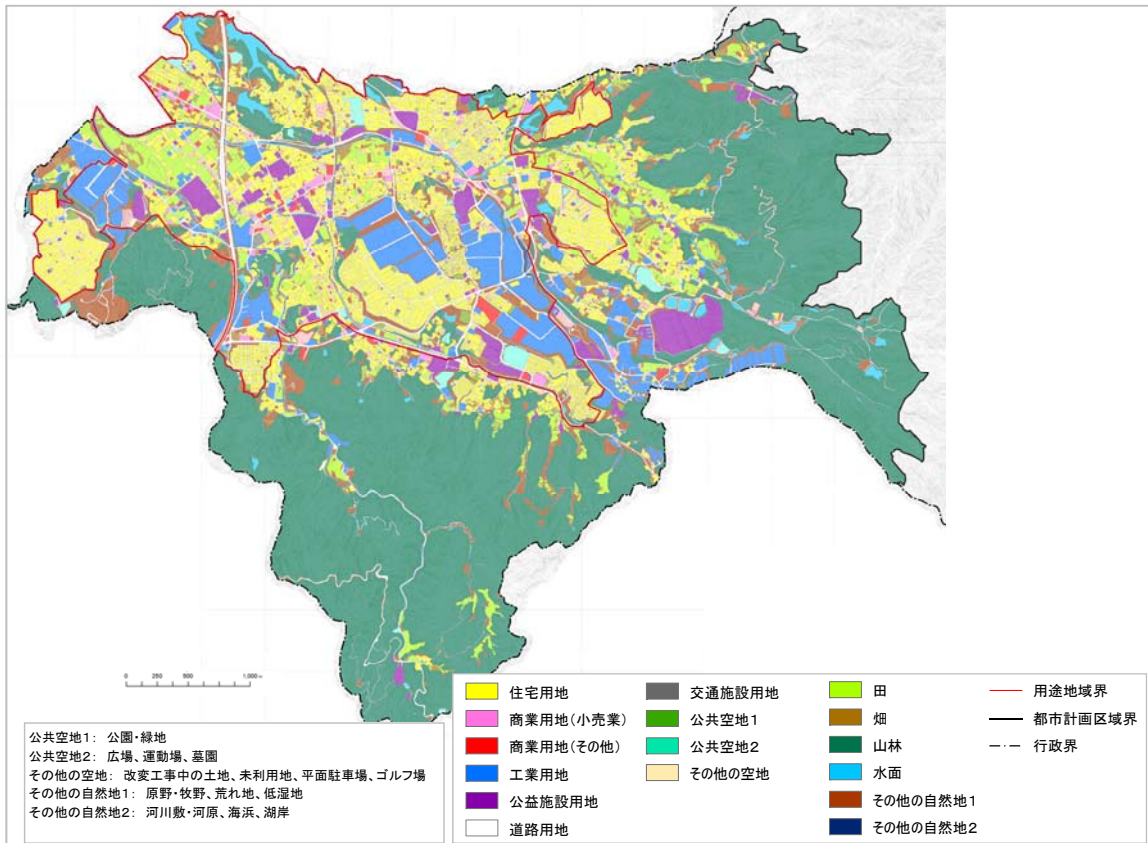


福祉巡回バス及び西鉄バス運行コース

1.5 土地利用状況（都市計画区域内）

○用途地域では、都市的土地利用が72.2%を占め、住宅用地31.9%、工業用地12.7%、公益施設用地4.8%、道路・交通施設用地14.7%が多くを占めています。その一方で、その他自然地10.1%、田・畑7.8%の割合も高くなっています。

○用途地域外では、自然的土地利用が83%を占めています。



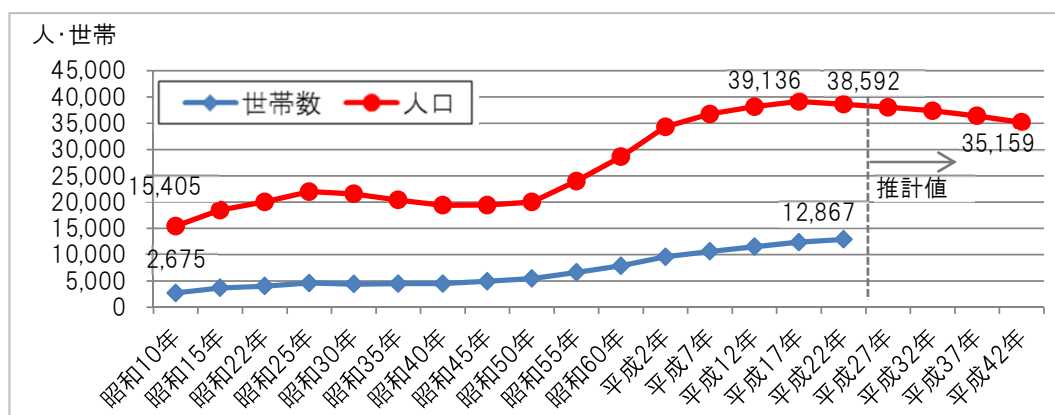
土地利用現況 : 平成 25 年度都市計画基礎調査

1.6 人口・世帯数

1.6.1 人口及び世帯数の推移

行政区域における人口の推移

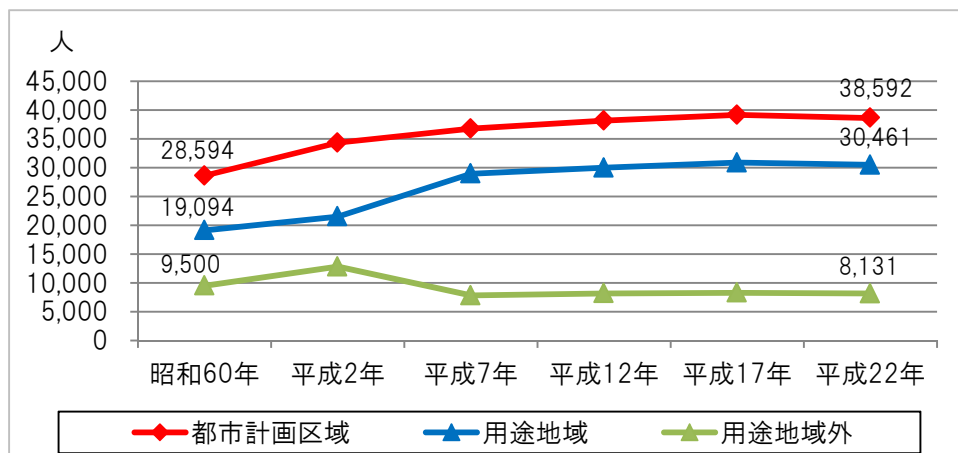
- 本町の人口は、石炭産業の繁栄によって昭和 25 年まで増加し続けましたが、炭坑の閉山に伴いその後減少に転じ、昭和 50 年代からは福岡市の成長とともにベッドタウン化が進み平成 17 年の 39,136 人にまで増加し続けました。平成 22 年は 38,592 人に減少しており、今後も減少し続けることが予測されます。
- 世帯数は昭和 10 年以降増加傾向にあり、平成 22 年は 12,867 世帯となっています。昭和 10 年から平成 22 年にかけて、世帯数は 4.8 倍に増加しているのに対し、人口は 2.5 倍でとどまっているため、1世帯当たりの人口は 5.76 人から 3.00 人にまで減少しています。



平成 22 年まで 国勢調査
平成 27 年以降 日本の地域別将来推計人口 H25.3 推計(国立社会保障・人口問題研究所)
人口と世帯数の推移(行政区域)

都市計画区域などにおける人口の推移

- 平成 22 年の人口は、都市計画区域 38,592 人、用途地域 30,461 人、用途地域外 8,131 人となり、用途地域に本町の人口の約8割が居住しています。
- 人口の推移では、用途地域で増加傾向、用途地域外で減少傾向にあります。



人口の推移 :平成 25 年度都市計画基礎調査

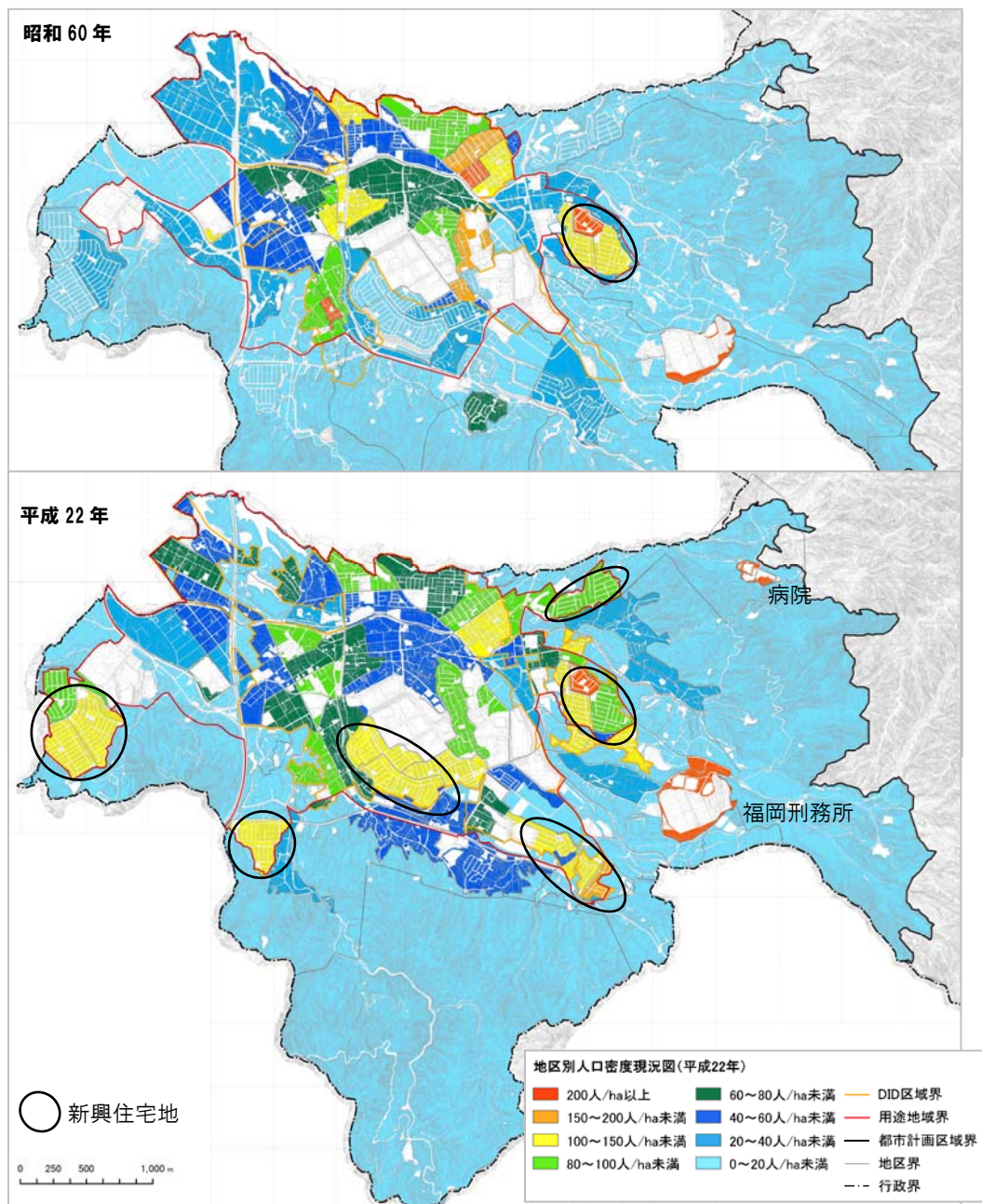
1.6.2 人口密度

○平成 22 年の人口密度(可住地[※])は、都市計画区域 22.0 人/ha、用途地域 62.8 人/ha、用途地域外 6.4 人/ha と用途地域で高くなっています。

○用途地域では、四王寺坂団地やひばりが丘などの新興住宅地を中心に人口が増加しており、人口密度が特に高くなっています。

○用途地域外においても、用途地域に隣接する原田地区などでも人口が増加し、人口密度は 40 人/ha を超えています。

※可住地:水面、公共空地、道路用地、交通施設用地などの住むことができない非可住地を除く区域

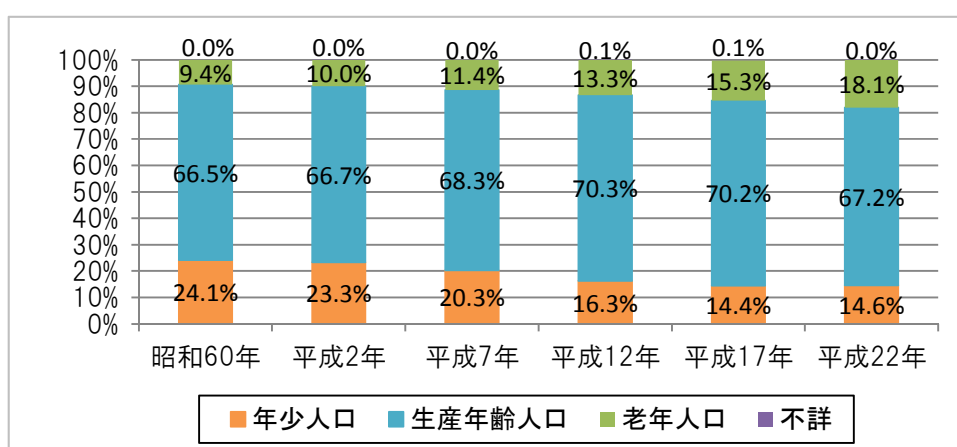


人口密度 : 平成 25 年度都市計画基礎調査

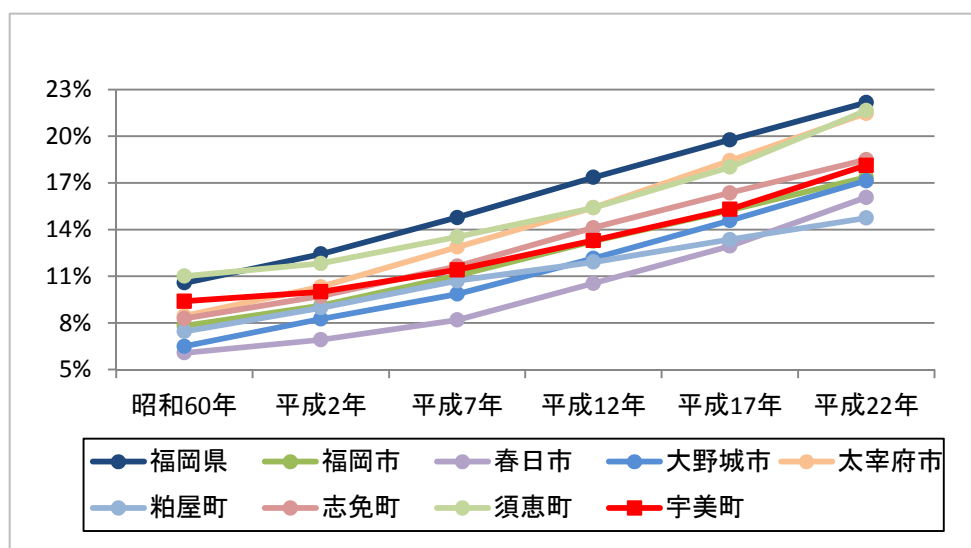
1.6.3 年齢階層別人口

○年齢階層3区分別人口構成は、年少人口割合が減少傾向にあるのに対し、老年人口割合は増加し続け、平成22年は、年少人口(15歳未満)14.6%、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)67.2%、老年人口(65歳以上)18.1%となっており、高齢化が進展しつつあります。ただし、周辺市町に比べて、高齢化の進行はやや緩やかな傾向にあります。

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
年少人口	6,899	7,988	7,448	6,208	5,640	5,648
生産年齢人口	19,009	22,862	25,092	26,815	27,457	25,949
老年人口	2,686	3,427	4,188	5,070	5,988	6,991
不詳	0	6	0	33	51	4
総人口	28,594	34,283	36,728	38,126	39,136	38,592



年齢階層3区分別人口の推移 : 国勢調査



高齢化率の推移 : 国勢調査

1.6.4 人口動態

- 出生・死亡による自然増減は、県全体では自然減であるのに対し、本町では、周辺市町と同様に自然増となっています。
- 転入・転出による社会増減は、周辺市町が転入超過の傾向にあるなか、本町は転出超過となっています。また、人口に占める転入・転出の割合は周辺市町に比べて少なくなっています。
- 自然増に比べて、社会減が大きく人口の減少は社会減が要因となっています。

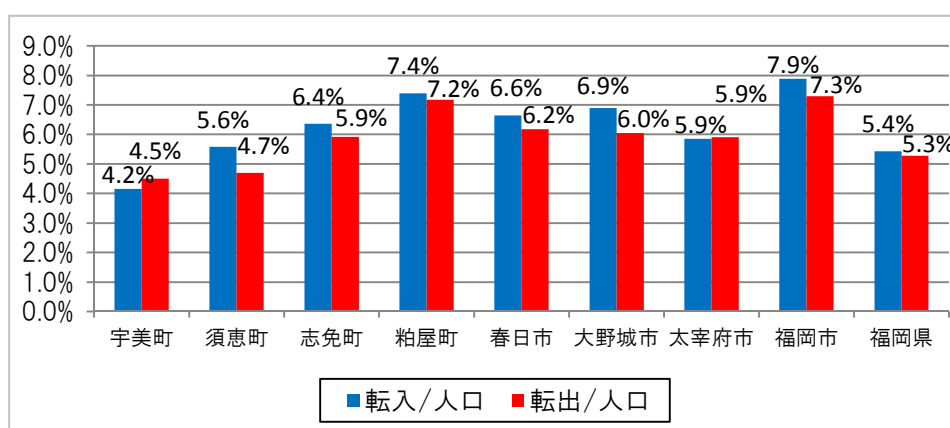
	出生/人口	死亡/人口	人口	出生	死亡	増減
宇美町	0.9%	0.8%	38,543	348	310	38
須恵町	1.0%	0.9%	26,587	279	226	53
志免町	1.2%	0.7%	45,072	542	318	224
粕屋町	1.6%	0.7%	42,892	679	279	400
春日市	1.0%	0.6%	108,024	1,027	677	350
大野城市	1.1%	0.6%	96,760	1,078	615	463
太宰府市	1.0%	0.8%	71,249	748	551	197
福岡市	1.0%	0.7%	1,492,254	14,480	10,526	3,954
福岡県	0.9%	0.9%	5,085,368	45,831	48,286	▲ 2,455

(自然増減は平成23年10月～平成24年9月。人口は平成24年10月1日現在)

人口動態(自然増減) : 平成24年福岡県の人口と世帯年報

	転入/人口	転出/人口	人口	転入	転出	増減
宇美町	4.2%	4.5%	38,543	1,603	1,737	▲ 134
須恵町	5.6%	4.7%	26,587	1,485	1,250	235
志免町	6.4%	5.9%	45,072	2,866	2,667	199
粕屋町	7.4%	7.2%	42,892	3,171	3,075	96
春日市	6.6%	6.2%	108,024	7,182	6,675	507
大野城市	6.9%	6.0%	96,760	6,668	5,848	820
太宰府市	5.9%	5.9%	71,249	4,174	4,212	▲ 38
福岡市	7.9%	7.3%	1,492,254	117,640	108,773	8,867
福岡県	5.4%	5.3%	5,085,368	276,267	268,752	7,515

(社会増減は平成23年10月～平成24年9月。人口は平成24年10月1日現在)



人口動態(社会増減) : 平成24年福岡県の人口と世帯年報

1.6.5 小学校区ごとの人口の動向

- 小学校区ごとの人口は、「宇美」が大幅に増加、その他は減少傾向にあり、「原田」で減少が大きくなっています。「宇美」は、自然増減・社会増減ともに増加しており、特に、自然増減の出生率(6.1%)が他の小学校区に比べて大きくなっています。「原田」は、自然増減・社会増減ともに減少しており、特に、社会増減の減少率(-2.8%)が大きくなっています。
- 自然増減が増加している「宇美・井野・宇美東」は、いずれも出生率が高く、年少人口率も、他の学区に比べて高くなっています。その一方で、自然増減の減少が大きい「桜原」は死亡率が高く、老年人口率も高くなっており、年齢構成が人口の増減に影響していることがわかります。
- 社会増減が増加している「宇美」は、多くのバス路線が経由し、JR宇美駅や多くの公共施設が立地する中心地を有する地域となっています。その一方で社会増減が減少している「原田・宇美東・井野」は中心地から離れた地域で、特に減少が大きい「原田・宇美東」は博多方面から離れた地域となっています。また、これらの地域の老年人口率は平成17年から平成22年にかけて大きく増加しており、平成22年以降は団塊世代が老年人口へ移行することから、今後一層の高齢化の進展が懸念されます。

	人口			自然増減 (H17年度末-H22年度末)			社会増減 (H17年度末-H22年度末)		
	H17	H22	増減	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
宇美小学校区	8,591	9,034	443	547	327	220	2,304	2,187	117
	-	-	4.9%	6.1%	3.6%	2.4%	25.5%	24.2%	1.3%
宇美東小学校区	6,324	6,293	-31	313	243	70	1,560	1,731	-171
	-	-	-0.5%	5.0%	3.9%	1.1%	24.8%	27.5%	-2.7%
原田小学校区	10,126	9,837	-289	315	337	-22	1,669	1,947	-278
	-	-	-2.9%	3.2%	3.4%	-0.2%	17.0%	19.8%	-2.8%
桜原小学校区	7,998	7,941	-57	286	420	-134	1,710	1,643	67
	-	-	-0.7%	3.6%	5.3%	-1.7%	21.5%	20.7%	0.8%
井野小学校区	4,807	4,798	-9	271	134	137	1,110	1,224	-114
	-	-	-0.2%	5.6%	2.8%	2.9%	23.1%	25.5%	-2.4%
計	37,846	37,903	57	1,732	1,461	271	8,353	8,732	-379
	-	-	0.2%	4.6%	3.9%	0.7%	22.0%	23.0%	-1.0%

下段はH22人口に対する割合

小学校区ごとの人口動態 : 住民基本台帳人口

年齢階層別人口 (%)	宇美 小学校区		宇美東 小学校区		原田 小学校区		桜原 小学校区		井野 小学校区		町全体	
	H17	H22	H17	H22	H17	H22	H17	H22	H17	H22	H17	H22
年少人口(~14歳)	16.9	18.3	13.4	14.7	15.6	14.0	13.8	13.8	14.1	14.3	15.0	15.1
生産年齢人口(15~64歳)	65.1	62.3	72.5	67.0	71.4	70.6	65.2	63.6	73.8	71.1	69.2	66.6
老年人口(65歳~)	18.0	19.4	14.0	18.4	13.0	15.4	21.0	22.6	12.0	14.6	15.9	18.2

※平成17年度末の人口は集計基礎となる電子データが不足しており正確な集計ができないため、現在算定可能な情報で集計した。
 ※自然増減と社会増減の合計は、未届け者などを含まないため、人口の増減数とは合致しない。

小学校区ごとの年齢階層別人口率 : 住民基本台帳人口

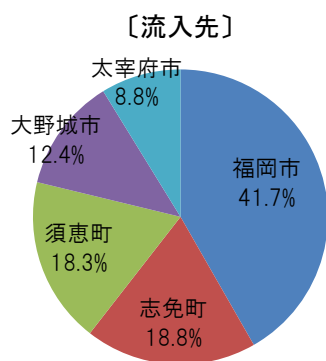
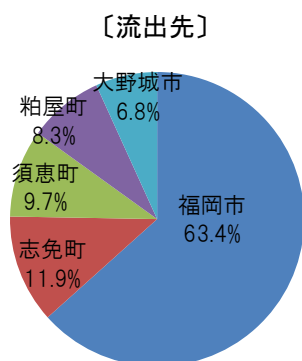
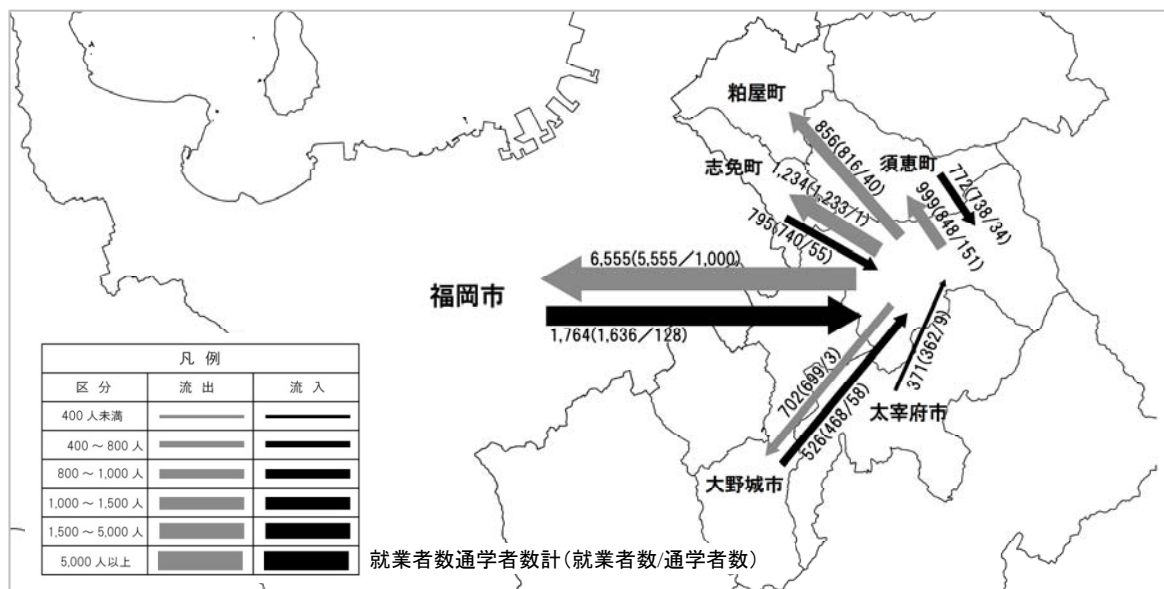
1.7 通勤・通学の状況

○平成 22 年の本町の通勤・通学者数は、流出が 12,946 人、流入が 6,342 人であり流出超過となっています。

○流出先は、福岡市が最も多く、全体の約 63%を占めています。流入先も福岡市が最も多く、全体の約 42%を占めています。流出入の通勤者と通学者の内訳は、通勤者が大半を占め、通学者は少ない傾向にあります。通学者では、福岡市や須恵町への流出が多くなっています。

	宇美町に 居住して 就業・通 学する人 (A)	流出		宇美町で 就業・通 学する人 (B)	流入		就業・通 学者比率 (B/A) (%)
		宇美町以 外で就業・ 通学する 人	流出率 (%)		宇美町以 外から就 業・通学 する人	流入率 (%)	
昭和 60 年	13,143	7,534	57.3	9,358	3,749	40.1	71.2
平成 2 年	16,607	10,586	63.7	11,314	5,293	46.8	68.1
平成 7 年	19,159	12,086	63.1	13,324	6,251	46.9	69.5
平成 12 年	20,327	12,749	62.7	14,273	6,695	46.9	70.2
平成 17 年	20,695	13,215	63.9	14,076	6,596	46.9	68.0
平成 22 年	19,372	12,946	66.8	12,907	6,342	49.1	66.6

流出入人口の推移 : 国勢調査



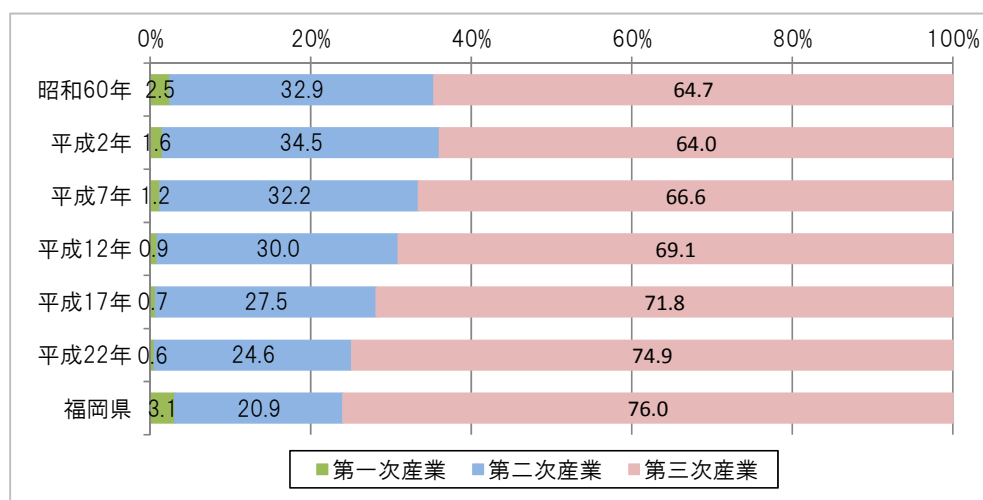
福岡市 志免町 須恵町 粕屋町 大野城市 福岡市 志免町 須恵町 大野城市 太宰府市

流出入先上位5都市 : H22 国勢調査

1.8 産業動向

1.8.1 就業構造

- 町内に居住する産業分類別就業者人口の構成は、平成22年現在、第一次0.6%、第二次24.6%、第三次74.9%と、第三次産業の割合が最も高くなっています。県平均と比較すると第一次産業の割合が低く、第二次産業の割合が高くなっています。
- 就業者割合の推移は、昭和60年から平成22年にかけて、第二次産業は約4分の3に、第一次産業は約4分の1にまで減少する一方で、第三次産業は増加傾向にあります。
- 産業分類を細かくみると、「サービス業」が最も多く、次いで「卸売業、小売業」「製造業」「運輸業、郵便業」「建設業」が多くなっています。



※「分類不能の産業」を除く

産業分類別就業者人口の構成比推移 : 国勢調査

産業分類		就業者数	構成比
第一次産業	農業, 林業	96	0.6%
	漁業	1	0.0%
	小計	97	0.6%
第二次産業	鉱業, 採石業, 砂利採取業	4	0.0%
	建設業	2,064	11.9%
	製造業	2,193	12.6%
	小計	4,261	24.6%
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	57	0.3%
	情報通信業	264	1.5%
	運輸業, 郵便業	2,088	12.0%
	卸売業, 小売業	3,803	21.9%
	金融業, 保険業	293	1.7%
	不動産業, 物品賃貸業	408	2.4%
	サービス業	5,397	31.1%
	公務(他に分類されるものを除く)	682	3.9%
	分類不能の産業	127	-
小計	13,119	74.9%	
計		17,477	100.0%

※構成比は「分類不能の産業」を除いて算定

産業分類別就業者人口及び構成比 : H22 国勢調査